

# 社会参画する意識を高める特別活動

-自主的・実践的に取り組む学級活動の実践研究-

特別活動研究会議

研究員 宮崎 里佳 (川崎市立向丘小学校) 下村 智英 (川崎市立麻生小学校)  
網谷 英大 (川崎市立橋中学校) 小野 はるか (川崎市立稲田中学校)  
指導主事 高橋 徹

## I 研究の概要

### 1 主題設定の理由

情報化とグローバル化の進展や絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境などの社会変化は加速度を増し、複雑で予測が困難な時代となっている。子どもたちは、この複雑で予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っており、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていく力を身に付けることが求められている。

しかし、このような力は一朝一夕に身に付くものではない。したがって、実社会に出る前の学校段階で、一つの社会とも呼べる、学級や学校での生活をよりよく送るための基盤となる力を育むことができる特別活動が担う役割は大きいと言える。

このことは、平成29年3月の学習指導要領前文において、

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

と学校教育と実社会との繋がり大切さが示されたこと。

小学校学習指導要領解説 特別活動編で、

「社会参画」は、よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。社会参画に必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与するなかで育まれると考えられる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域に対する参画、持続可能な社会の担い手になっていくことにもつながっていく。(後略)

と小さな社会である学校で社会参画に必要な力を育むことの必要性が示されたこと。

中学校学習指導要領解説 特別活動編で、

2の(1)の指導に当たっては、集団としての意見をまとめる話し合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし、それらを発展させることができるよう工夫すること。

と小学校からの積み重ねの重要性が示されたことから分かる。

さらに、かわさき教育プラン基本政策I「人間としての在り方生き方の軸をつくる」においても

本市では、子どもたちのキャリア発達(社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程)を促すために、すべての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しています。引き続き各学校の実情に応じて、子どもたちの社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系統的に育てる教育が求められています。

と施策1「キャリア在り方生き方教育の推進」において、社会参画に関する能力や態度を育む必要性が示されている。

これらのことから、実社会に出る前の学校段階において、学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成する「学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画」（以下学級活動（１）とする）に対する期待はより大きくなってきている。

では、子どもたちが実際に社会に出たときに実際に必要とされる力にはどのようなものがあるのだろうか。経済産業省では平成30年2月に「人生100年時代の社会人基礎力」を提唱し、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの能力を示した。この中で、教育と社会の関係の接続の必要性が指摘されている。

このように教育・経済の社会的要望に応え、複雑で予測困難な時代を生きる子どもたちがよりよい社会の創り手となることを願い、特別活動研究会議では、小学校と中学校における学級活動（１）を中心とした社会参画に関する研究を進めることとし、次のように研究主題を設定した。

## 社会参画する意識を高める特別活動 -自主的・実践的に取り組む学級活動の実践研究-

### 2 研究の内容

#### （１）研究の目的

社会変化と学習指導要領改訂の経緯を踏まえ、社会参画意識を高めることを目指した学級活動（１）の小中学校の実践例を示すことにより、学習指導要領に示されている一連の学習過程を適切に行う方法の確立と共に、小学校での学級会における学びを中学校へとつなげる方法について研究を進める。

#### （２）研究方法

- ①研究主題設定の背景を明確にすると共に、目指す子どもの姿を明らかにする。
- ②社会に開かれた教育課程の実現を意識し、社会に出た時に必要とされる力と学級活動で育まれる力のつながりを構想図としてまとめる（図1）。
- ③目指す子どもの姿の具現化に向け、小学校と中学校2校ずつで学級活動（１）の授業実践を行う。
- ④自分で課題を見だし解決にむけて話し合う活動（学級会）の実践の仕方を研究し、学級活動（１）で活用できる学級活動カードやワークシート等を「資料集」としてまとめる。

#### （３）研究の手立て

研究主題にせまるために、以下の手立てを設定した。

##### ①議題の選定

教師の指導の下、児童生徒が話し合う必要があると思う議題の提案と選定を行う。

##### ②学級会カードなどの活用

自発的・自治的な活動にするために、教師の指導の下、事前に議題についての自分の考えを学級会カードにまとめたり、話し合いを自分たちの力で行えるように司会グループが活動計画を作成したりする。

##### ③学級活動の積み重ね

学級活動のPDCAサイクルを自分たちの力で行うことができるように、学級会を行う経験を積む必要がある。学級会での話し合いや集会の様子を掲示するとともに、教師が板書や合意形成できたことを記録として残すことで、経験を生かした話し合いができるようにする。

＜ 実社会で求められる資質・能力 ＞

- 前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）
- 考え抜く力（課題発見力・計画力・想像力）
- チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性など）

学級活動の PDCA サイクルを自分たちの力でやることのできる子ども

①問題の発見・確認

【学級の諸問題から課題を見いだす力】

- 学級目標達成に向けた議題や生活の改善に関する議題を収集するため、小学校から継続して議題箱を設置し、学級日誌や帰り学活で発表する場や設けるよう指導する。

⑤振り返り

【取組を修正するために話し合う力】

- 議題のねらいに近づくような活動になるよう、更に話し合いをし、活動を修正・改善につなげていくように指導する。

④決めたことの実践

【最後までやり抜く力】

【自分の個性を発揮する力】

- 個性を活かすことができるように指導する。

＜中学校＞

- 学級・学校や地域・社会の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における自分の役割についての知識・技能。
- 学級・学校や地域・社会の問題について把握し、合意形成を図ってよりよい解決策を決め、取り組むことができる力。
- 学級・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度。
- 学級・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題に対し、他者と協働して課題を解決しようとする態度。

②解決方法等の話し合い

【課題を自分事として捉え主体的に意見を述べ合う力】

- 事前のプログラム委員の指導
- 事前のアンケートの実施  
原因を明確になるよう事前にアンケートを行い、話し合いの中で意見を比べることができるようにする。
- 話し合いの手順が定着するよう日頃から指導する。  
(1) 問題意識の共有  
(2) 意見交換  
(3) 合意形成

③解決方法の決定

【意見の背景にある相手の立場や考えを理解したり、相手に寄り添ったりする力】

- 生徒の実態に応じて合意形成のプロセスの例を示す。

学級活動の PDCA サイクルを教師と一緒にやることができる

①問題の発見・確認

【学級の諸問題から課題を見いだす力】

- 学級会コーナーを活用できるように指導する。(議題箱や提案カードの設置や議題、提案理由などの提示)

⑤振り返り

【成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりする力】

- 子ども一人一人の成長やクラス全体がどのように変わったのかについての共有し、次に課題につなげられるように助言する。

④決めたことの実践

【自分のよさを発揮できる力】

- 一人一役として実践の準備に取り組み、自分たちの力で成し遂げられた満足感や達成感を得られるよう助言する。

＜小学校＞

- 学級や学校の形成者として、話し合い活動の進め方やよりよい合意形成の仕方、チームワークの重要性や集団活動における役割分担の仕方についての知識・技能。
- 学級や学校における問題に気づき、解決方法などを話し合っ決めて、自己の役割や責任を進んで果たすことができる力。
- 学級・学校や地域・社会の形成者として、問題を解決し、よりよい生活をつくらうとする態度。
- 学級・学校や地域・社会の形成者として、答えが一つではない課題に対し、他者と協働して課題を解決しようとする態度。

②解決方法等の話し合い

【建設的な意見を述べ合える力】

- 計画委員会で、活動計画シートを用いて、話し合いの流れや、話し合いで大切にしたいことを確認する。
- 学級会ノートを活用し、事前に自分の考えを書く時間を設ける。
- 話型を提示し、理由を明確にして自分の考えを発表するように助言する。

③解決方法の決定

【意見の背景にある相手の立場や考えを理解したり相手に寄り添ったりする力】

- 児童の実態に応じて合意形成のプロセスの例を示す。

図1 学級活動(1)を通じて小・中学校の段階に応じて身に付けさせたい資質・能力の構想図

## II 研究の実際

### 1 検証授業① A小学校2年生

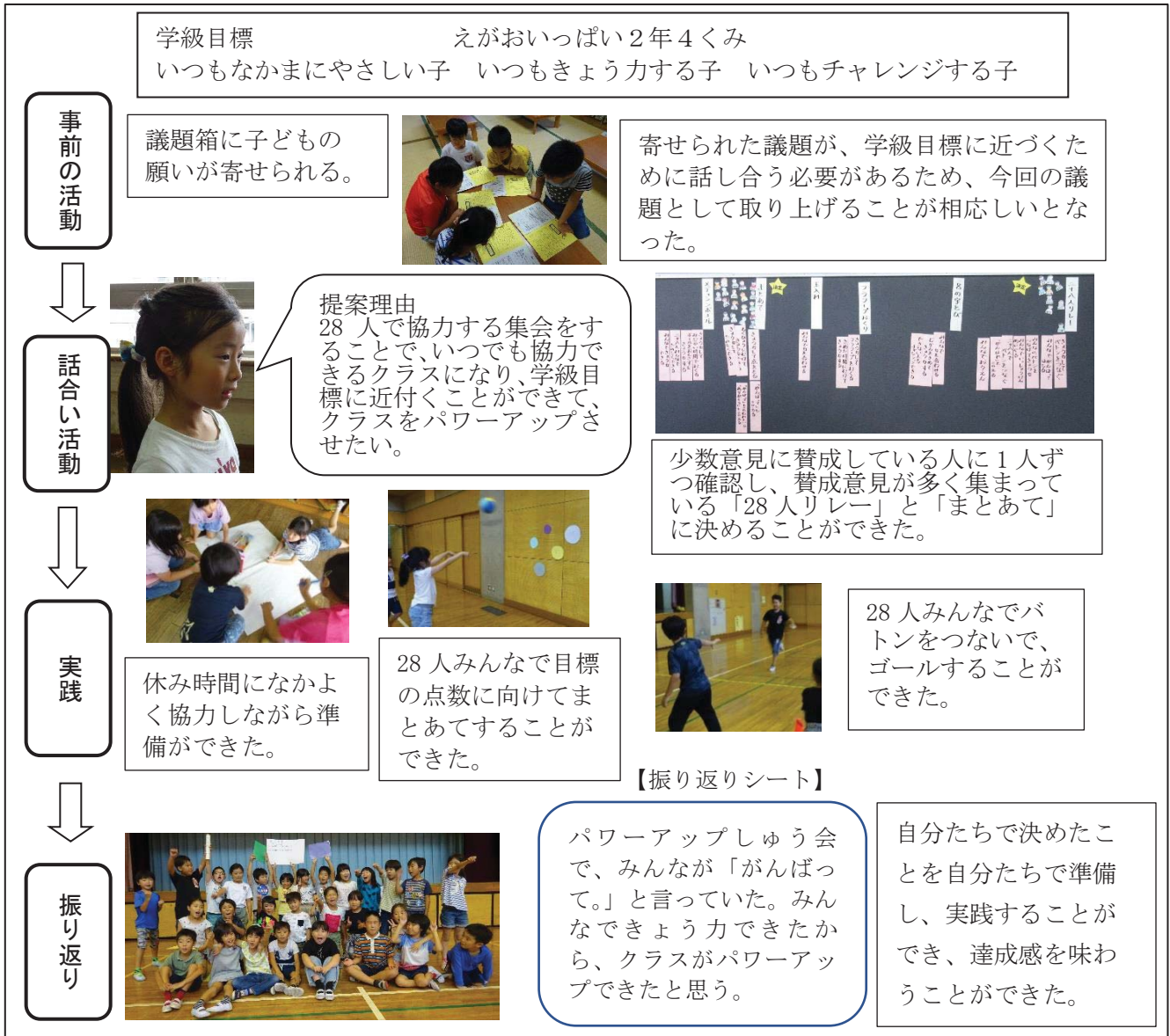
学級活動(1) 第5回 学級会 議題「2年4組パワーアップ集会をしよう」

#### ◆研究主題に迫るための手立て

社会参画の意識を高めるために

自分たちで話し合っただけで決めたことを自分たちで準備し、実践し、成し遂げたときの達成感を体験させ、自分たちでクラスをよりよくしていく姿を大切にしていく。

#### ◆活動の実際



#### ◆考察

本実践では、時間内で初めて合意形成することができた。しかし、4回目までの話し合い活動の課題が時間内決定というということもあり、子どもたちが時間内決定を意識し過ぎるところがあった。賛成している人が多いから決定ではなく、賛成理由に書かれている言葉に注目しながら、合意形成できるよう指導していくことが大切である。集会の準備の前に、集会に必要な役割を考え、全員で役割分担を行った。同じ役割の子どもたち同士で話し合いながら取り組むことができている、これまでの経験が生かされていると感じた。ただし、プログラムの合間に、担任が集会を進めるための手助けをした場面があった。自分たちの力だけで集会を進めることが大切であることを学ぶことができた。



2 検証授業② B小学校 4年生

学級活動(1) 第4回 学級会 議題「4-1 運動会をしよう」

◆研究主題に迫るための手立て

社会参画の意識を高めるために

子どもたちが、学級をよりよくしていくことを目指し、今の学級に必要な議題を選べるようにする。また、話し合いの経験を積み重ねることで発達段階に応じた合意形成を行えるようにする。活動を振り返る場面を大切に、子ども同士が互いを認め合ったり、みんなの役に立っていることを実感したりすることで自己有用感を高めていく。

◆活動の実際

学級目標 思いやりのある4-1 (友だちに優しく・みんなで協力・笑顔たくさん)

**事前の活動**

議題箱に子どもの願いが寄せられる。



議題箱	今すぐ解決	全員で取り組む	自分達で解決	工夫できるか	学校生活の改善
すいか割り	○	○	○	○	△
運動会	○	○	○	○	○
お別れ会	△	○	○	○	○
劇	△	○	○	○	△

寄せられた議題を議題整理&選定表を使って考えると、「4-1運動会」が今回の議題として取り上げることが相応しいとなった。

**話し合い活動**

提案理由  
30人みんなで運動会を行うことで、協力して活動することができ、学級目標に近づけることができると思う。




**実践**

1回目の実践

僕は、ドッジビーがいいけどみんなの意見を聞いて二人三きゃくの意見にゆずります。

友だちの意見を共感的に理解し、譲ることでリレーと二人三脚で決めることができた。

1回目の振り返り

準備をして当日を迎えるが、プログラムが終わらないという問題に直面する。

一人一人が時間を意識することを確認。

2回目の実践




**振り返り**

全体の振り返り

みんなで協力した楽しい運動会ができた。

振り返り

改めて話し合えることができた。  
みんなで協力できた。  
学級目標に近づいた。  
実践を通して「自分、友達、クラスのために」の意識がわいた。  
今回は1日限りの時間内に終わらなくて悩んでおりましたが、そこで2回目をいっしょにがんばり、2回目を時間内に終わらせられた。学級目標に近づけたので、よかった。いっしょに時間内に終わらせた。

◆考察

特別活動は「なすことによって学ぶ」を方法原理としている。学級活動(1)の議題で取り上げるものは、児童に決定と実践を委ねられるものである。これらのことから、実践を行う上で予期せぬ失敗に出会うことも想像できる。この時に、教師が注意を与えるよりも子ども同士で活動を振り返って「話し合う」ことを大切にしたい。振り返ることで、今回の問題点に気づき、改善策をみんなで話し合ってみつけ、実際に行ってみようとする足で次に向かって歩み出す。今回、子どもたちは「時間を意識する」という改善策を見つけて、実際に修正した活動を行い、前回よりも楽しい会を行う事ができた。このような経験をたくさん積むことで、自主的に活動する力を身に付けていくことが改めて分かった。

### 3 検証授業③ C中学校 1年生

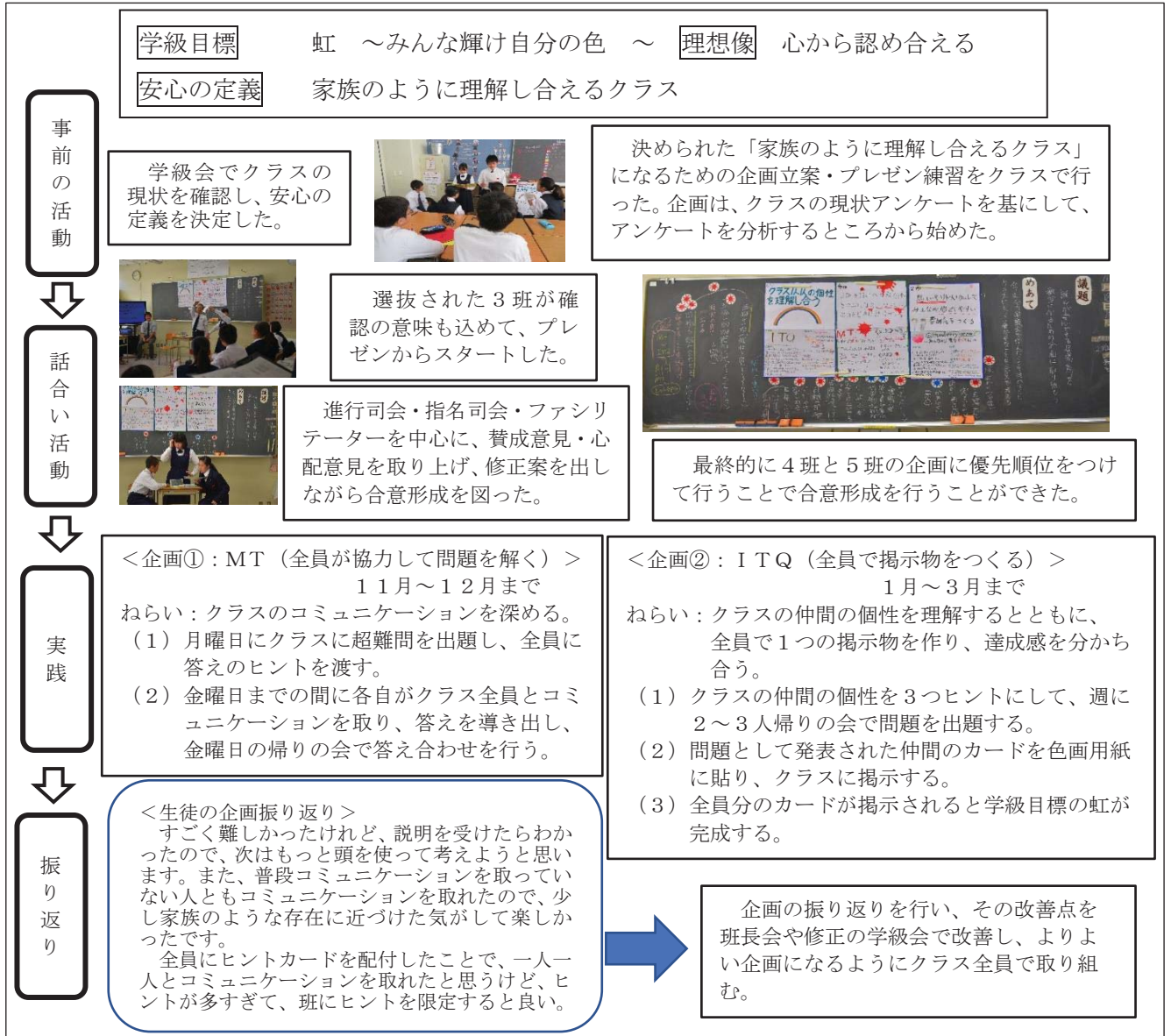
学級活動(1) 第15回学級会 議題「誰もが安心できる居場所を教室に作るための企画に取り組もう」

#### ◆研究主題に迫るための手立て

社会参画の意識を高めるために

生徒会年間テーマを達成するために、クラスの安心の定義や学級目標に照らし合わせて振り返る。話し合いで具体的な実践を決め、みんなで取り組み、安心できる居場所を教室に作ることを意識して集団生活を送る。

#### ◆活動の実際



#### ◆考察

本実践では、各班が「家族のように理解し合えるクラス」となり、安心できる居場所をクラスに作るという学年の取組を達成するために、クラスの現状アンケートを分析し、プレゼン・学級会を行った。プレゼンを考えている時は、班で協働し、自分たちのプライドをもって企画立案を行った。しかし、学級会では、自分たちの班が作った企画ということのを忘れ、クラスにとってよりよい企画は何かという視点で話し合いを進めていくことができた。どの企画もクオリティーが高いため、企画を修正や合体するのではなく、優先順位をつけて2つの企画を行うことで、合意形成できた。2つの企画のねらいをしっかりと捉え、最初の企画を通して、コミュニケーションを深めながら何でも話せる関係を作る。2つ目の企画で全員の個性を理解し、クラス全員で1つの掲示物を完成させ、充実感を分かち合うという案を生徒の発言で合意形成された。その後の修正の学級会で、足りない部分について話し合い、改善に努めることができた。

4 検証授業④ D中学校3年生

学級活動(1) 第5回 学級会

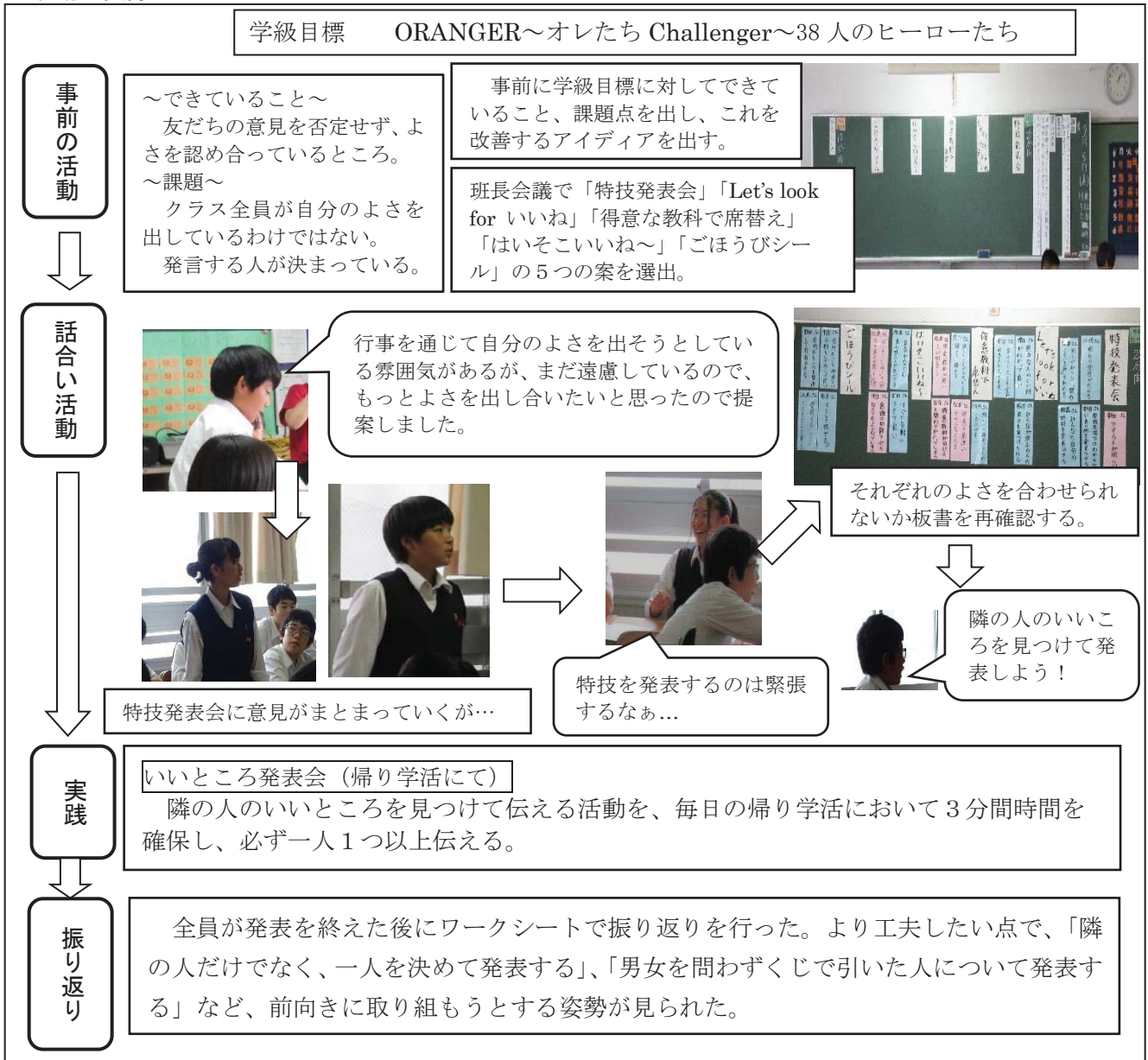
議題「学級目標に近づき、クラスをよりよくするための取り組みをしよう」

◆研究主題に迫るための手立て

社会参画の意識を高めるために

学級目標を達成するために、自分たちの生活を学級目標に照らし合わせて振り返る。話し合いで具体的な実践を決め、みんなで取り組み、より学級目標に近づいていくよう意識し集団生活を送る。

◆活動の実際



◆考察

「自分にとってよい」ではなく「このクラスにとってよい」という視点から意見交換を活発に行うことができた。話し合いの終盤に「どうしても自分にはできない」という一人の意見が出されたので、クラス全体がその生徒も参加できる企画を考えた。最終的には2つの意見を合体させた意見に決定した。多数決ではなく、少数の意見に寄り添い、全員が参加できる企画を前向きに考える姿勢が見えた。決定した企画を継続して行い、冬休み前に振り返り、企画をする前後のクラスの変容を把握し、そこで再びクラスが学級目標に近づくような活動を継続していく。



### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 各学級の変容

##### A 小学校 2 年生

子どもたちは、学級活動（1）の実践を重ねてきたことで、話し合いや合意形成の仕方を知り、一人一人の思いを大切にしながら、合意形成をすることができるようになってきた。集会に向けて、子どもたちが必要な役割を考え、同じ役割の友達と協力しながら、自分たちの力で準備を進めることができるようになった。集会後の振り返りでは、準備や実践を通して、仲間の素敵なところをたくさん見つけ、伝え合うこともできた。

また、議題カードを出した子どもを教師が称賛し、価値付けしたことで、「今度はこんな集会をしたい」と意欲的に学級活動に取り組む子どもたちの姿が多く見られるようになった。

##### B 小学校 4 年生

話し合い活動を繰り返し行うことで、合意形成の仕方を学び、自分たちで合意形成「できる」という自信をもつことができた。話し合いの経験が少なく、合意形成できるかどうか自信がなかったときは、集会を行うことには前向きでも、実行するまでの話し合いに対しては前向きになれない子もいた。つまり、学級をよりよくすることへの参画意識が高まらなかった。しかし、「共感的に理解し、譲る」「優先順位を決める」などの合意形成の仕方を自分たちで見付け、教師の助言によりそのよさを学ぶと意識が変わっていった。「自分たちの力できっと解決できる」という自信と話し合いの積み重ねをもとに、学級をよりよくしようと動き出す子が増えていった。

##### C 中学校 1 年生

学級活動（1）の学級会を積み重ねていく中で、話し合いの仕方や折り合いをつけ、合意形成を行うことができるようになった。その過程の中で、他者の意見に耳を傾け、クラスにとってよりよいものは何かを考え、みんなで合意形成を行うことの大切さや楽しさを経験し、日常生活の中でも学級会の経験が生かされている場面が見られるようになった。また、自分たちの立てた目標の達成に向けて一人一人が実践を行い、振り返り、改善し、さらに実践を重ねていくというPDCAサイクルを行うことを定着させることができた。以上の成果から学級に対する帰属意識が高まり、連帯感を深めていくことにつながった。

##### D 中学校 3 年生

学級活動（1）を継続して行った結果、議長団の進め方や個人の意見の出し方が合意形成に向けてスムーズに進行していくようになった。初めは自分の意見を最後まで譲らない生徒もいたが、徐々に「自分にとってもみんなにとってもよいこと」に意見がまとまるようになった。そのような合意形成に至るには、みんなで決めたことをみんなで歩いていくことが大事であることを常に考えてきたこと、また、議長団が話し合いで予想される意見を話し合い、修正の方向を検討しながら事前の準備をしておくことができるようになったことが大きい。

行事も多く、週に一度の学活の時間が学級活動（1）として定期的に扱われることが難しいが、年間を通した計画の中で実践することによって、クラスに対する思いが深まると実感した。

#### 2 研究から見えてきたこと

##### (1) 成果

教師の適切な指導の下、子どもたちが話し合いたい議題を選定し、学級会カードを活用しながら主体的に話し合い、実践を積み重ねていくことによって、折り合いをつけた合意形成ができるようになった。また、話し合いや実践の後に振り返りを行い、成果や課題を明確にして次の活動に取り組むことで、社会参画意識が高まっていくことが分かった。学習指導要領解説特別活動編には、合意形成したことを実践する重要性が指摘されており、上記の各学級の変容からも継続的な実践の重要性が裏付けられた。今後も教職員の共通理解の下、年間指導計画を踏まえて学級活動（1）の時間を確保し、合意形成したことの実践を継続していく。

##### (2) 今後の課題

今後の課題としては、折り合いをつけて合意形成を図る小学校の話し合い活動の積み重ねや経験を中学校へ繋げていくことが挙げられる。自己開示に慎重になる中学校では、生徒が本音を語ることを躊躇する傾向がある一方、本研究のように学級活動を継続している学級では、友だちの思いを理解し、少数意見を生かした解決方法を提案し合う姿も見られた。今後は小学校と中学校との学級活動の授業交流や、教材・資料などの情報交換を行う等、可能なことから小学校と中学校の学習の接続を図っていきたい。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をいただきました講師の先生方、また、校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し、厚くお例申し上げます。

##### 【参考文献】

文部科学省国立教育政策研究所 『みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』 2019年  
文部科学省国立教育政策研究所 『学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)』 2017年